学修成果を更に高めるための質の高い授業をめざして

平成27年度「授業設計と成績評価ガイドライン」の策定について

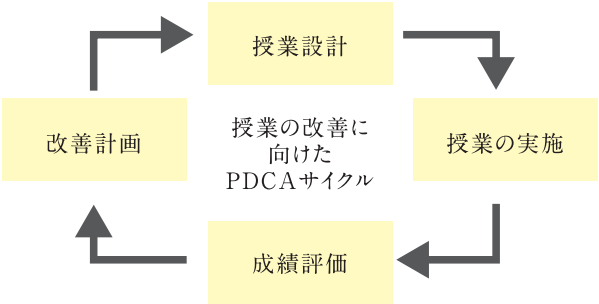
大学教育総合センターFD推進部門長 上野 誠也
大学教育総合センター 曽根 健吾

本年度、大学教育再生加速プログラム事業の一環として「授業設計と成績評価ガイドライン」（以下、ガイドライン）を策定しました。

策定に至った経緯として、平成24年に教務厚生部会において「優率」「不可率」の高い科目があること、教員の成績評価の基準にばらつきがあることが問題点として指摘されました。その指摘を受けて、教務厚生部会内に成績評価ガイドラインを検討するワーキンググループ（以下、WG）が発足しました。WGでは、他大学におけるガイドラインの調査やWG内での議論を重ね、ガイドラインのたたき台を各部局の先生方に提示し意見を収集しました。集まった意見をもとにしてガイドラインを策定しています。平成27年度は6月から7月にかけて、大学教育総合センターFD推進部では各部局の教授会前にFDミニシンポジウムを開催し、ガイドラインの概要について先生方への周知を行ってきました。

ガイドラインにおいては、以下の3つの要点が挙げられます。

1　1点目は、授業改善に向けたPDCAサイクルの確立です。大学を取り巻く社会情勢が変化し、学生の学修成果が重視されている今、学生の学修成果を高め主体的な学びを確立するためにはPDCAサイクルを意識して学生に質の高い授業を行うことが重要であると考えられます。先生方には、授業改善のPDCAサイクルを念頭におき特に成績評価において履修目標、到達目標に基づく厳格な評価をお願いしています。



2　2点目は、授業における成績評価の基準を全学で統一することです。教員間の成績のグレードに対する認識を統一することは、学生が成績グレードのレベルを認識し自発的な学修を促す上でも重要だと考えられます。今回「成績評価の基準表」を導入し、成績グレードと履修目標、到達目標との関係を明確にし、学生の自発的成長を促す基準表にしました。

「成績評価の基準表」

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

3　3点目は、授業別ルーブリックの導入です。ルーブリックとは、学生が何を学習するのかを示す評価の基準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標です。各授業担当の先生方に電子シラバス上で授業別ルーブリックを入力していただき学生に公開します。成績評価の基準を明確にし、学生に主体的な学修を促す効果が期待できます。ルーブリックの詳しい解説は本ニュースレターの4ページに掲載していますのでそちらもご参照下さい。大学教育総合センターFD推進部では、平成28年度春学期分の電子シラバスの入力に向けて、現在「授業別ルーブリック作成マニュアル」の公開に向けた準備を進めております。なお、成績評価の基準表および授業別ルーブリックの導入などにあわせて、平成28年度春学期入力分より電子シラバスを改修します。改修においては、授業外時間の学修内容を入力する項目の追加や、履修目標と到達目標の分離といった変更がありますので、電子シラバス入力の際に留意いただけますと幸いです。

最後に、本ガイドラインの策定、導入を通して国大生の学びの充実につなげ学生の学修成果を全学一丸となって高めていきたいと考えています。教員の皆さまのご理解のほどよろしくお願い致します。